

公開研究会

エビデンスにもとづく空間計画の実践

EBD(Evidence-Based Design)とは、説明力のある設計を目指す Design Management の概念である。「根拠にもとづく設計」と訳される。EBM(Evidence-Based Medicine) という医療分野から広まった概念であり、問題解決のための方法・方策に、その根拠の確かさをもとめようとする概念である。従来の基準や規格、指針などに盲目的に従う設計ではなく、ていねいな問題把握と確かな推論により、最高の効果を期待できるデザインを目指す。

本研究会では、Evidence-Based Design (EBD) の研究者と設計者があつまり、そのルーツと意義について解説するとともに、実践的な事例を通してその展開について議論する。まず、EBD の研究者である三重大学の加藤彰一氏より EBD の歴史とその枠組み、理論的展開を解説する。つぎに、具体的な空間計画における EBD の実践事例について、病院建築、学校建築、公共空間、それぞれの実践的デザイナー、専門の研究者により解説をする。

病院建築については、東海大学伊勢原病院の設計担当者（戸田建設）と東洋大学の岡本和彦氏による EBD の実践の事例、学校建築については、佐藤総合計画の八木真爾様氏と東京電機大学の伊藤俊介氏により EBD の事例、公共空間の EBD については、九州大学の柴田久氏とスペースシンタックスジャパンの高松誠治氏により福岡天神の設計事例を通して EBD について解説していただく予定である。その後、EBD の意義と今後の展開について議論する。

病院設計の実務、学校設計の実務、公共空間の実務にかかわる方々、各分野の研究者、建築デザインの学生の皆さんまで、空間計画にかかわる幅広い方々の参加を期待しています。

主催：建築計画委員会 設計計画運営委員会 Evidence-Based Design 小委員会

日時：2016年12月15日（木）17:00～19:00

会場：建築会館会議室（港区芝 5-26-20）

趣旨説明

岸本達也（主査・慶應義塾大学准教授）

主題解説

1. 使用開始後評価法 POE や建物性能評価法 BPE からみた EBD 理論の展開
加藤彰一（三重大学教授）
2. EBD による病院設計の改革
岡本和彦（東洋大学准教授）＋ 岡村信之（戸田建設）
3. 学校設計から見た EBD への課題と期待
伊藤俊介（東京電機大学教授）＋八木真爾様（佐藤総合計画）
4. 公共空間整備・運営の戦略検討と EBD
高松誠治（スペースシンタックス・ジャパン代表）＋柴田 久（福岡大学教授）

ディスカッション

司会・進行・まとめ

大野隆造（東京工業大学名誉教授）

参加費：会員 2,000 円、会員外 3,000 円、学生 1,000 円（資料代含む／当日会場払い）

定員：60 名（申込み先着順）

申込方法：Web 申し込み <https://www.aij.or.jp/index/?se=sho&id=1653> よりお申し込みください

申込問合せ：日本建築学会事務局 事業グループ 榎本

TEL：03-3456-2051 E-mail：enomoto@aij.or.jp